

進化経済学会ニューズレター No. 10

May 2000

進化経済学会事務局

606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部気付

[URL://www.econ.kyoto-u.ac.jp/societies/evolution](http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/societies/evolution)

Tel.075-753-3427/3455 Fax:075-753-3492 e-mail:yagi@econ.kyoto-u.ac.jp

郵便振替口座：01030-1-22493 (進化経済学会)

九州・福岡大会盛会裏に開催 来春大会は、大阪千里山・関西大学

記事

福岡大会概要報告

第5回会員総会報告

第II期第4回理事会報告

平成11年度決算および平成13年度予算

部会活動報告

英文出版 Evolutionary Controversies in Economics

国際シンポジウム Evolution/Transition

入会者名簿

名簿修正

第6回大会コール・フォー・ペーパーズ

オータム・コンファレンスの案内



第5回福岡大会概要報告

福岡大会運営委員長 岡村東洋光

第5回福岡大会は、「制度・進化と経済学の諸領域」を統一テーマとして、2001年3月30日(金)ー31日(土)に開かれましたが、予想以上の参加者を数え、盛会のうちに無事終了しました。受付状況によると、両日ともに約200名の参加者でした。一日のみの参加者がいるので、参加総数は220名にのぼりました。事前の葉書による参加希望者数は180名でしたので、嬉しい誤算でした。

今大会のプログラムは、四つのセッションを同時並行する形で開催しました。報告本数は初日が32、二日目33、加えてポスターセッションが18本でした。その中には、二つの特別企画を設けました。一つは「日韓合同シンポジウム」で、これは一昨年ソウルで開いた合同研究会の延長線上で設定されました。今回は'Evolutionary Economics at the Edge of IT Revolution'というテーマで開催されました。熱のこもった討論を通して、両国サイドから今後も合同の研究会を開催する意思確認がなされました。

もう一つの「プレナリー・トーク」は発足後5年間の中間的な総括の意味合いを兼ねて、今後の研究方向について問題提起をおこなうという主旨で設定されました。人選については、できるだけ異なるアプローチとテーマでお話いただける方々をお願いしました。「第三モードの科学研究法としての計算経済学」(塩沢)、「体制移行分析のフロンティア」(八木)、「経済物理学が描く経済像：新しい経験科学を目指して」(有賀)、「知識の生産・流通として見る経済」(瀬地山)という四つの報告がありました。これらに示されているように多様な問題関心と異なる接近方法の並存というのが、進化経済学会の現状を表していると思います。

これらはいずれも次回大会へ繋げるテーマとして取り上げられました。すでに八木会員が「Evolution and Transition」というテーマで国際交流基金からファンドを得ており、次回大会時に国際シンポジウムが予定されています。次回大会とのつながりという点では、「経済学の再生をめざして」「U-Mart」「進化ゲームとシミュレーション」「技術革新と進化」といったセッションも同じように継続されるものと考えられます。

今大会においては、前述の特別企画とは別に、司会や討論者を中心に非会員の方々にもご協力いただき、いくつかのセッションを掘り起こしました。「新自由主義と進化思想」「進化経済学へのオーストリア学派からのアプローチ」「進化・制度アプローチの多様性と政策的意義」「会計学と制度」、「経済開発と制度・進化」などです。こうしたセッションは、昨年秋のオーストリア・コンファレンスのテーマ「進化経済学の可能性を探る」の延長線上で考えました。その結果、今大会は相対的に思想史関連のセッションが多くなり、その分報告内容がバラエティに富んだ大会になったかと思えます。ただし、残念ながら予定していた経済史プロパーのセッションは作れませんでした。

また、東京大会に続いてポスター・セッションを設けました。これは地方での開催ということで心配しておりましたが、かなりの盛況でした。次回大会以降も続けていただきたいと思えます。

運営に関しては、事前に報告原稿が読めるよう、できるだけ多くの原稿をホームページに載せましたが、投稿された原稿の作成ソフトの関係もあってうまく掲載できないものがあつたことは、反省材料です。ほかに、初日朝の受付での混雑と最初のセッション開始時間の遅れがありましたが、それらを除けばまずまずの進行ができたかと思えます。

最後になりましたが、九州・福岡という地方での開催にもかかわらず、多数の皆様がご参加いただいたことに対し、また、ご協力いただいた報告者、討論者、司会者、そして会長・副会長と本部事務局理事、手伝いの学生の皆さんに対し、運営委員会を代表し厚く御礼申し上げます。

第5回会員総会報告

日時：2001年3月31日（金）

九州産業大学にて

1. 議長として、酒井泰弘理事を選出した。
2. 冒頭の瀬地山会長の挨拶のなかで、第4回大会以来、安部琢哉会員、大河内茂美会員、清水満会員、山下清会員が逝去されたことについての弔意が表明された。
3. また、瀬地山会長から、次回大会の準備運営のために会則第13条によって関西大学の若森章孝会員を事務局理事として任命することについて、第4回理事会の同意も得ていると説明があった。総会で役員として承認したことになる。
4. 会員状況報告を八木常任理事がおこなった。昨年9月9日の第3回理事会への報告分として、23名の退会（うち物故者3名）、事務ミスによる名簿削除が4件あり、また昨日の第4回理事会報告分で21名の退会（うち物故者1名）があった。
第3回理事会報告分については、「ニューズレターNo.9」を参照。
（なお、清水満会員を清水博会員と誤記したことをお詫びします。）
第4回理事会報告分については、「第II期第4回理事会報告」を参照。
5. 第3回理事会で入会資格あるものとした入会申込者は15名（うち大学院生5名）であり、また第4回理事会でも16名（うち大学院生8名）を入会資格あるものと判定したことが伝えられ、双方あわせて入会を承認した。第4回理事会の有資格判定者については、今大会の報告者を除き平成13年度からの入会者とみなす。

この承認により、平成13年度開始時の会員数は581名（うち院生会員78名、賛助会員2団体）となった。

第3回理事会の有資格判定者については、ニューズレターNo.9を参照。第4回のそれについては、「第II期第4回理事会報告」を参照。

6. 会計担当の吉田常任理事から、平成11年度決算とその監査報告について説明があり、決算を承認した。なお、昨年6月に刊行された『ゲネシス1』は、平成11年度会計で処理されている。

7. 引き続き今年度3月現在の会計報告のあと、平成13年度の予算案が示され、それを承認した。なお、平成13年度予算における前年度からの繰越が多いのは、現在準備中の英文出版を今年度会計で処理するのは時間的に無理なので、出版費をもちこすことにしたためである。予算の概要は「第4回理事会報告」を参照。

8. 岡村福岡大会運営委員長から第5回大会の実施状況について説明があった。参加者は200人を超えたとのことで、九州で開催される大会に会員が参加するだろうかという不安は杞憂であったことが判明した。一同、大会の準備と実施にあたった運営委員に感謝。

9. 第6回大会の計画について、若森大会担当事務局理事から説明があった。大会は2002年3月29（金）-30（土）日に関西大学の千里山キャンパスでおこなうので、千里山（大阪）大会と称したい。オータム・コンファレンスは9月15日に開催する。大会のテーマとしては知識をとりあげることしたいとのこと。

（本号掲載の「コール・フォー・ペーパー

ーズ」および「オータム・コンファレンス案内」を参照)

10. 塩沢編集委員長から、有賀委員の担当している英文論集、八木委員の担当している『ゲネシス2』の進捗状況が報告された。前者は、この夏に刊行予定だが会員への無償配布は困難、大幅な割引価格で購入を募ることになるだろう。後者は、原稿締め切りを4月末に設定しているが、外国人寄稿者が主なので翻訳作業が必要なため、刊行は来年4月と考えている。

11. また、より野心的な企画として、複数学会の協力と国際的編集陣による英文誌を発刊することが企画され、その具体案(見積もり等を含む)の作成・審議に入ることにしたこと、また邦文を含む電子ジャーナルについても、同様に検討することになったことが報告された。次回の総会で決定できるようにしたい。

12. 各部会は活発に活動しているが、時間の節約のため、口頭報告は割愛し、ニューズレターで活動状況について伝えること

となった。

13. 八木常任理事から、1月に開催された「計測自動制御学会」の自律分散システムシンポジウムの協賛団体になったことが報告された。また、その時の決定についての経験から、今後は各種の学術的会合への協賛の依頼がある場合、常任理事会のまわりもち承認で決することが理事会で承認されたと報告された。

14. 八木常任理事から、ゲネシス2号と関連させて移行経済をとりあげておこなう国際シンポジウム(Evolution and Transition)の企画について、進化経済学会名で国際交流基金におこなった助成の申請をおこない、減額内定の通知が来ているので開催可能であると報告された。2部に分け、具体的な状況に関する第1部は京都でおこなうが、理論的考察に重点を置いた第2部は第6回大会の国際セッションとしておこないたいと説明された。

(以上、文責：八木紀一郎)

第II期第4回理事会報告

日時：2001年3月30日(金)

九州産業大学にて

20理事出席、11理事委任、会長、

副会長、1監査委員出席

1. 冒頭で瀬地山会長より、次回大会の準備運営の中心になる会員を会則第13条による事務局理事として任命することに関しての第3回理事会での審議をふまえて、関西大学の若森章孝会員を事務局理事としたいという表明があった。任命権限は会長にあるが、理事会の同意も得たいとのこと。

異議なく同意して、若森会員を理事会に迎え入れた。

2. 会員状況報告を八木常任理事がおこなった。第3回理事会以降、21名の退会者(うち物故会員1)があったが、この数のなかには会則第7条(3年以上会費未納)による会員資格喪失者も含まれる。逝去会員について総会で弔意を表すべきかどうか議論となり、会長が冒頭の挨拶の機会に弔意を述べることとなった。

退会者：跡田直澄、張博珍、林敏彦、

本間正明、今井清文、貝塚啓明、熊谷信昭、黒川和美、長尾昭哉、成瀬龍夫、新田均、岡本道雄、島影真奈美、篠原総一、高橋洋児、武智一貴、鷺田豊明、渡辺淳一、山下清、鶴沢秀、奥野信宏の 21 会員

3. 第3回以降の入会申込者が、当日出席理事によって伝えられた1名を含め 16 名あったが、全員、入会資格を有すると判定し、総会の承認を求めることとした。

入会資格承認者： 江口友朗 (G)、江里口拓、藤田奈々子 (G)、原田哲史、平井一人、洪興子 (G)、井出明 (G)、石倉雅雄、喜多一、溝端佐登志、水田健、村山晴彦 (G)、朴智瑛 (G)、鈴木潤、Valls Campa Lluís (G)、表弘一郎 (G) の 16 名 (G は大学院生で会費半額該当者)

4. 会計担当の吉田常任理事から、前理事会で報告を受けた平成 11 年度決算にふまえた現在 (3 月 29 日) の会計状況についての報告があった。なお、昨年 6 月に刊行された『ゲネシス 1』は、平成 11 年度会計で処理されているが、英文出版にはなお時間がかかるので、今年度は出版費をもちこす見込みである。決算は、大会終了後にその関連支出を整理しておこなう、会費収入が昨年より多いのは、滞納分の納入があったためである、とのこと。

5. 引き続いて、平成 13 年度予算案が吉田常任理事から提案された。理事会は、それを承認して、会員総会にそのまま提出することとした。平成 12 年度から出版費を繰り越す見込みのため繰越金が多額 (3,000,000 円) となっている。

(ニューズレター本号掲載平成 13 年度予算を参照)

6. 岡村福岡大会運営委員長から第 5 回大会の実施状況について説明があった。出席を伝えるハガキは 180 通であったから、当日参加や非会員の参加を考慮すると、参加者は 200 名を超えるであろうとのこと。例年の大会に劣らない参加者である。厚みを増した大会報告集にも一同感歎。

7. 第 6 回大会の計画について、若森大会担当事務局理事から説明があった。大会は 2002 年 3 月末に関西大学の千里山キャンパスでおこなうので、千里山 (大阪) 大会と称したい。オータム・コンファレンスは 9 月 15 日に開催する。

8. 塩沢編集委員長から、有賀委員の担当している英文論集、八木委員の担当している『ゲネシス 2』の進捗状況が報告された。前者は、この夏に刊行予定だが会員への無償配布は困難、大幅な割引価格で購入を募ることになるだろう。後者は、原稿締め切りを 4 月末に設定しているが、外国人寄稿者が主なので翻訳作業が必要なため、刊行は来年 4 月と考えている。

9. 昨年 9 月 9 日の拡大編集委員会、前夕の常任理事会で議論されてきた、複数学会の協力と国際的編集陣による「特定欧文総合誌」への取組みについてははかられ、その具体案 (見積もり等を含む) の作成・審議に入ることとなった。次回理事会にはかるために、6 月に編集委員会と常任理事会の合同会議を開く。また、邦文を含む電子ジャーナルについても、レフェリー制度をしくなどして権威のあるものにできるのではないかということで、これも同様に検討することになった。

10. 九州地方部会、制度の政治経済学部会、現代日本の経済制度研究部会、非線形

平成12年度部会活動報告

理事会配布資料から整理しました。会計報告は略。

進化経済学会九州部会

連絡先：岡村東洋光会員

第19回研究会 2001年3月29日(木)

九州産業大学1号館9階中会議室

姫野順一(長崎大学)

「イギリス19世紀末の新自由主義、社会進化論、優生学—社会経済システム論の諸緒類型」

深貝保則(東京都立大学)

「進歩と進化をめぐる社会イメージ—

19世紀ブリテン知性史を舞台に—」

第18回研究会 2000年9月19日(火)

九州産業大学1号館7階中会議室

マイケル・フリーデン(オックスフォード大学)

「Liberalism as an Ideology」

第17回研究会 2000年7月15日(土)

九州産業大学経済学都

佐々本晃彦(九州共立大学)

「異文化経営に関する一考察」

中尾訓生(山口大学)

「西田幾太郎の日本文化論」

第16回研究会 2000年5月27日(土)

九州産案大学経済学部

小野隆弘(長崎大学)

「都市ごみ管理における民営化と公共性の再犠成」

岩下伸朗(福岡女学院大学)

「マーシャル経済学の進化論的特徴とその構成」

部会活動の一額として、小柳公洋・豊田謙二・岡村東洋光編著『企業と社会の境界変容』ミネルヴァ書房を1999年12月に出版

した。

非線形問題研究部会

以下のとおり、研究会を開催し、多数の参加者を得ました。

非線形問題研究部会 有賀裕二

2000年4月18日(火)15時-17時。中央大学多摩校舎(中央大学経済研究所共催)

[evoecolist.446]

有賀裕二氏(中央大学商学部)

Family Expenditure Data in Japan, and the Law of Demand Macroscopic Micro-economic View-

2000年6月23日(金)15時-17時

中央大学多摩校舎(中央大学経済研究所共催) [evoecolistr.467]

有賀裕二氏(中央大学商学部)

Avatamska Game Structure and Its Design of Experiment

要約配信 (evoecolist.468) <http://aruka.lab.tamacc.chuo-u.ac.jp/index.html>

2000年7月7日(金)16時-18時

中央大学多摩校舎(中央大学経済研究所共催) [ecoecolist.471]

海蔵寺大成氏(国際基督教大学準教授)

Speculative Dynamics in a Heterogenous Agent Model

2000年10月10日(火)15時-17時

中央大学駿河台記念館(中央大学企業研究所共催) [evoecolist.496,498]

香取眞理(かとりまこと)氏(中央大学理工学部教授)

「複雑系を解く確率モデル」

要約配信 (evoecolist.500) セミナー「確率モデルと統計物理学」の要約 (有賀裕二要約をもとに香取眞理校訂)。また、進化経済学会 News Letter No.9 にも掲載。

2001年3月23日 (金) 15時-17時
中央大学多摩校舎 (中央大学経済研究所共催) [evoecolist.533]

Volker Bohm (Professor, University of Bielfeld, Germany)

The Dynamics of Endogeneous Random Asset Price

●進化経済学会 evoecolist で配信しなかった研究会。

2001年3月2日 (金) 15時-17時
中央大学多摩校舎 (中央大学企業研究との共催)

野崎道哉氏 (岩手県立大学総合政策学部助手) 「景気循環と経済政策」

「制度の政治経済学」部会

連絡先: 清水耕一会員

2000年5月20日 河合塾京都校
瀬地山敏 (関西大学)

「技術進歩と経済発展」

萩原泰治 (神戸大学)

「グローバルな投下労働量の計測—日米欧アジア国際産業連関表による分析」

2000年6月24日 河合塾京都校
篠田武司 (立命館大学)

「新しい産業モデルとスウェーデン」

2000年6月30日 京都大学経済学部

Robert Boyer (CEPREMAP)

Reform of Economic Institutions and National Growth

2000年12月9日 河合塾京都校

室田武 (同志社大学)

「米ドル・ユーロ時代の地域通貨: 貨幣の進化か退化か?」

2001年3月3日 河合塾京都校

瀬地山敏 (関西大学)

「経済と知識」

阪野智一 (神戸大学)

「新自由主義的改革と90年代の政党再編」

2001年3月28日 京都大学経済学部

八木紀一郎 (京都大学)

「進化と移行: イントロダクション」

Hans Peter Brunner (アジア開発銀行)

Evolution of Privatization and Business Creation in the German Unification Process

馮鋭 (大阪市立大学: G)

Industrial Policy in the Transition Economy in China

「現代日本の経済制度研究」部会

連絡先: 平野泰朗会員

第7回研究会 2000年8月21日

13時から17時 京都大学経済学部

宇仁宏幸 (京都大学)

「先進諸国の市場調整パターン」

コメント: ロベール・ボワイエ

ロベール・ボワイエ (CEPREMAP)

「アメリカのニューエコノミー」

参加者: 約30名

第8回研究会 2001年1月14日

13時から17時 京大会館

遠山弘徳 (静岡大学) 「リーン生産システムと生産的効率性」

磯谷明徳 (九州大学) 「戦後日本の労働市場と雇用システム」

====英文出版====

***Evolutionary Controversies in Economics:
A New Transdisciplinary Approach,***

本書は1997年3月に進化経済学会が発足して以来の海外協力者による思想的に基底となる諸論文、JAFEE2000大会で発表された国際的諸論文、そして進化経済学会が取り組むフロンティアサイエンスの諸論文を学融合の観点から編纂したものである。題名の「論争」は代替的な正当性を競うという意味で用いない。競合する理論の中からわれわれがいかにうまく連繋して問題解決に至るかの「技の競い合い」を「論争」と見なしている。学融合的な研究(transdisciplinary: 東京大学新領域創成研究科のキーワード)は学際的研究をいっそう進化させたものと見ることができる。本書の「進化的論争」とはこの意味で「学融合的接近」と同義である。とくに、問題解決のなかでも、マクロミクロループのような根本的課題がある。これらの解決のため、学融合の試みが不可欠である。本書はそのための一つの試みである。

収録された論文の種類は万華鏡的に広がりをもつが、哲学思想的論文と数理的あるいはシミュレーション論文ができるだけ相互に密接に架橋される配列を工夫した。たとえば、「進化経済学の流れの部」はすぐに数学的議論に飛躍するのではなく、非線形理論のテクニックを用いて新たな文化理解を究めた Puu 教授のきわめて独自の論考 *Economic Developments in the Arts, Crafts, and Science* に接続する。技術的な学融合の試みは本書では JAFEE2000 の3つのトピックス(非線形動学、実験経済学、マルチエージェントシステム)に限った。選ばれた題材はネルソンたちが「進化経済学の流れ」と見なした題材の範囲にある。しかし、これらが恣意的な選択でないことはその後の交流で明らかになりつつある。イタリア複雑系連合大学院構想や JAFEE2000 で遭遇したジャーナル *Nonlinear Dynamics, Psychology and Life Sciences* (NDPLS; 2002年に JAFEE2000 特集号公刊予定)のテーマと重複しているのである。さらに「New Frontier の部」で U-mart 実験、経済物理学などのきわめて新しい試みを独自研究として紹介することができたのも、日本の進化経済学会の特徴であると自負できる。なお、制度学派の経済学も Cambridge Realist Group の批判に晒される。進化経済学を異端とみなす人もいるが、進化経済学を批判的に検討するグループも存在する。New Frontier のフレームワークの外に飛出す異端的研究も本書では進化経済学に不可欠の要素とみなした。最後に、多くの海外からの寄稿者が最後まで本書に協力を惜しまなかったことに感謝している。本書が進化経済学発展のガイドブックの役割を担うことを期待しています。【以上、編者より】

刊行予定は6月末です。3,000円の特価(学会の出版費から大幅な負担をした特価です)期限は、9月末までです。同封の注文用紙を用いて、直接版元のシュプリンガー・フェアラーク・東京にご注文ください。複数部数の注文、あるいは機関購入も可能です。

Evolutionary Controversies in Economics: A New Transdisciplinary Approach, Ed. by Yuji Aruka as a Publication of Japan Association for Evolutionary Economics, Springer Verlag Tokyo, June 2001

CONTENTS

Preface	S. Sechiyama, Kansai University	on the Web	
Introduction	Y. Aruka, Chuo University		Y. Aruka, Chuo University
<i>I. Streams of Evolutionary Economics</i>		<i>IV. Multiagent System and Complexity</i>	
A Viewpoint on Evolutionary Economic Theory	R. R. Nelson, Columbia University, USA	On the Relevance of Genetic Programming to Evolutionary Economics	S. -H. Chen, National Chengchi University, Taiwan
How Can Evolutionary Economics Evolve?	G. M. Hodgson, University of Hertfordshire, UK	Social Interaction and Coordination Failures in a Simple Model of Technology Adoption	D. Delli-Gatti, Catholic University, Milan, Italy
Economics and Darwinism,	U. Witt, Max-Planck-Institute for Research into Economic Systems, Germany		M. Gallegati, University of Teramo, Italy
<i>II. Evolutionary Nonlinear Dynamics</i>		Effects of Competitive Meta-players in the Distributed Social Dilemma	
Economic Development in the Arts, Crafts, and Science	T. Puu, University of Umea, Sweden		T. Yamashita, Hokkaido University
Nonlinear Dynamics of Debt and Capital: a Post-Keynesian Analysis	T. Asada, Chuo University	<i>V. New Frontier for Evolutionary Economics</i>	
Attractor Stability in Unemployment and Inflation Rates	S. J. Gaustello, Marquette University, USA	U-Mart: A Test Bed for Interdisciplinary Research into Agent-Based Artificial Markets	H. Sato, National Defense Academy
<i>III. Experimental Economics and Evolution</i>			Y. Koyama, Kyoto University
Evolution and Negative Reciprocity	D. Friedman, University of California at Santa Cruz, USA		H. Deguchi, Kyoto University
	N. Singh, University of California at Santa Cruz, USA		K. Kurumatani, Electrotechnical Laboratory
Avatamsaka Game Structure and Experiment			Y. Shiozawa, Osaka City University
		Econophysics: Empirical Laws, Theory and Application	H. Takayasu, Sony Computer Science Laboratories

- | | |
|--|---|
| The Master Equation Approach to Complexity | M. Yoshida, Senshu University |
| Self-Organization in Labor Mobility | |
| M. Tabata, Kobe University | Why Should Economics Including (Old) |
| N. Eshima, Oita Medical University | Institutionalists be Interested in Critical |
| I. Takagi, Kyushu Tokai University | Realism? |
| VI. Economic Heresies | T. Lawson, University of Cambridge. |
| From the 'Historical Time' to the Economics of | UK |

Evolution/Transition: Evolutionary Perspectives on Transition Economies

進化と移行 国際シンポジウム 2002/3.28-30 京都・大阪

参加者および実行委員募集

1990年代には、それまで集権的な計画経済体制をとっていた諸国の大部分が、様々な形での政治変動をともないながら、いっせいに市場経済への移行を開始しました。10年を経て「移行は完了した」とも言われますが、本当にそうでしょうか。また、一体、何から何への「移行」だったのでしょくか。私たち、進化的経済学者の目からみると、この移行過程の基礎には、個々の経済主体・経営主体の行動の変化やその相互作用があり、それらは全体として、「経路依存性」や「思わざる結果」（創発性）を生み出す進化的な過程です。進化的経済理論は、これまででミクロの主体の相互作用とそのパターンの変化を主として理論化して来ましたが、それをマクロの体制的变化と結びつけ、歴史過程の認識に資することができるかどうか問われています。このシンポジウムは、欧米だけでなく、中国・ロシアの制度的・進化的経済学者の参加を得て、移行経済における進化的側面について討論したいと思います。

シンポジウムは、個々の諸国の移行過程の特殊性を対比的にとりあげる第1部（3月28日京都大学で開催予定）と移行過程の進化経済学的分析をとりあげる第2部（3月29日関西大学で開催予定）から構成されます。

現在のところ、予定参加者は、Vladimir Mayevsky (Center for Evolutionary Economics, Moscow), Sheng Hong (Unirule Institute of Economics, Beijing), Kazimierz Poznanski (University of Washington, Seattle), Bernard Chavance (Paris VII), Carsten Herrmann-Pillath (Witten-Herdecke), Eric Magnin (Paris I) ほかで、日本人研究者としては本学会の大津定美、田中宏、溝端佐登史会員ほか参加されますが、なお研究報告や討論者を必要としています。どうぞ、プロポーザルを開催責任者までお寄せください。

開催責任者：八木紀一郎（京都大学経済学部）

yagi@econ.kyoto-u.ac.jp TEL: 075-753-3427 FAX:075-753-3492 (学部事務室)

福岡大会理事会用入会者名簿

ふりがな 会員氏名	所属 〒 郵送先	電話	e-mail	推薦者名
会員番号	部会等その他特記事項			
Eguchi, Tomoaki 江口友朗	G: 名古屋大学大学院経済学研究科 名古屋市昭和区神村長1-3 466-0802 ヴィラ三秀神村406号	052-753-2834	tomoaki@mbox.media.nagoya-u.ac.jp	山田鋭夫・植村博恭
00667	制度経済学における理論思考と論理			
Eriguchi, Taku 江里口拓	愛知県立大学文学部社会福祉学科 愛知郡長久手町作田1-402榊原ビル10 480-1153	0561-61-0043	eriguchi@mtj.biglobe.ne.jp	八木紀一郎・吉田和男
00662				
Fujita, Nanako 藤田奈々子	G: 名古屋大学大学院経済学研究科 堺市向陵中町3-4-18-204 590-0024	0722-51-0226	yuichi@isky.ne.jp	山田鋭夫・植村博恭
00669	経済成長・経済格差・技術変化・制度変化			
Harada, Tetsushi 原田哲史	四日市大学経済学部 桑名市藤が丘6-315 511-0865	0594-23-3569	harada@yokkaichi-u.ac.jp	八木紀一郎・吉田和男
00666	ドイツ経済思想と進化的経済学			
Hirai, Kazuto 平井一人	アジア航測株式会社 関西情報システム部 兵庫県伊丹市北本町2-14 664-0836 アローマ伊丹703号	06-6369-0556	kaz.hirai@ajiko.co.jp	八木紀一郎・吉田和男
00668	経済・社会システムの相互作用や内生的な変化のモデル化			
Hong, HeungJa 洪興子	G: 関西大学大学院社会学研究科 大阪府吹田市千里山西3-6-20-205 565-0844	06-6338-0023	eb8d505@ipku.kansai-u.ac.jp	瀬地山敏・吉田和男
00660	韓・日本・台湾における産業構造の展開過程の比較実証			
Ide, Akira 井出明	G: 京都大学大学院情報学研究科 京都市山科区御陵原西町7-3 607-8424 コープみささぎ402	075-583-1755	akiraide@earth.co.jp	高木一郎・田畑稔
00670	法と経済学・情報社会論			
Ishikura, Masao 石倉 雅男	一橋大学経済学部 東京都杉並区今川4-23-19-303 167-0035	03-3397-4875	ishikura@econ.hit-u.ac.jp	笠松学・植村博恭
00657	資本蓄積と所得配分、市場と経済的権力			
Kita, Hajime 喜多一	大学評価・学位授与機構 東京都文京区大塚3-29-1 112-0012 大学評価・学位授与機構	03-3942-9972	kita@niad.ac.jp	塩沢由典・松井啓之
00661	遺伝的アルゴリズム・人工市場			

2001年5月9日

1 / 2 ページ

ふりがな 会員氏名	所属 〒 郵送先	部会等その他特記事項
Mizobata, Satoshi 溝端佐登史	京都大学経済研究所 京都市左京区吉田本町 606-8501 京都大学 経済研究所	市場形成・移行過程の実証研究
00663		
Mizuta, Ken 水田 健	東日本国際大学経済学部 東京都三鷹市上連雀2-15-1 181-0012	制度の経済学と経済思想史
00658		
Murayama, Haruhiko 村山晴彦	G: 都大学大学院人間・環境学研 京都市左京区神楽岡町4-6 606-8311 倉橋マンション57号	資産評価と企業行動。ヴェレンの経済理論
00665		
Park, Jiyoung 朴智瑛	G: 流通科学大学大学院流通科 神戸市西区学園西町4-1 651-2103 国際学生センター 313号	
00671		
Suzuki, Jun 鈴木潤	財団法人未来工学研究所 横浜市金沢区柴町243-9-106 236-0012	R&Dマネージメント・計量文献学
00659		
Valls Campa Lluís バコス カンパ ユイス	G: 立命館大学社会学研究科 京都市右京区西京極北大入町1 615-0881 メン・ド・フルール213	経済団体、産業政策、先端産業の発展
00664		

<<お詫び：表弘一郎さんは、当日

このリストにありませんが、次号で

2001年5月9日

会員名簿訂正 (訂正事項のみ記載)

- 秋永利明 O:浜松大学国際経済学部, 〒431-2120 浜松市都田町 1230 浜松大学国際経済学部, T:053-428-7708, E:akinaga@hamamatsu-u.ac.jp
- 有賀裕二 T:0426-74-3617
- 浅田統一郎 P:Visit. Res. Scholar, Dept. of Econ. D-33501 Bielefeld, Postfach 100131, Germany
- 馮銳 G:大阪市立大学大学院経済学研究科, 〒606-8357 京都市左京区聖護院蓮華町 3 6 の 3 コーポシロー 31 号 T:090-9863-6088, E:feng@minos.ocn.ne.jp
- 藤井賢治 〒206-0803 東京都稲城市向陽台 4 の 4 の 2 の 811, T:042-378-0530
- 藤本茂 O:防衛大学校人文社会学群, 〒239-8686 横須賀市走水 1 の 10 の 20 防衛大学校人文社会学群, T:0468-41-3811 (Ex 3158), E:fujimoto@nda.ac.jp
- 藤沢宜弘 O:龍谷大学, 〒547-0033 大阪市平野区平野西 1 の 2 の 13 の 805, T:06-6764-7558, E:fujisawa@econ.ryukoku.ac.jp
- 藤原秀夫 T:075-251-3703, E:hfujiwara@mail.doshisha.ac.jp
- 福留久大 〒810-0014 福岡市中央区平尾 5 の 22 の 31, T:092-726-4721
- 福留和彦 E:fukutome@nara-ic.ac.jp
- 古川幹夫 T:092-926-7469
- 萩原泰治 T:078-803-684, E:hagiwara@econ.kobe-u.ac.jp
- 韓福相 T:0276-32-7816 E:bhan@kanto-gakuen.ac.jp
- 橋本了一 T:0879-25-2953
- 畑島宏之 10101 Grosvenor Place, Apt. 1511 Rockville, MD 20852 USA T:(USA) 301-530-4250 :hatashima@mail.goo.ne.jp
- 服部茂幸 T:072-871-0175
- 逸見彰彦 T:03-3364-8967, E:garidatky@hotmail.com
- 平野耕一 〒206-0824 東京都稲城市若葉台 4-33 ビューコート若葉台 9-102 T:042-350-7533 E:koichi@csc.liv.ac.uk
- 平山朝治 E:VYC13162@nifty.com
- 堀江典生 T:076-445-6436, E:horie@eco.yoyama-u.ac.jp
- 保住敏彦 E:hozumi@aichi-u.ac.jp
- 許仁教 (Ho,Im-Kyo) G:龍谷大学経済学研究科 〒606-8166 京都市左京区一乗寺庵野町 62 T:075-724-1122
- 井庭崇 〒228-0803 相模原市相模大野 8-7-7 悠々スクエア 801
- 飯田経夫 T:0568-51-1111
- 今井賢一 T:075-752-7073, E:imai@stanford-jc.or.jp
- 稲葉敏夫 T:277-0822 柏市柏の葉 1 の 5 の 21, T:0471-33-5164
- 石山嘉英 O:千葉商科大学, E:ishiyama@cuc.ac.jp
- 石塚良次 T:03-5934-0620, E:ishizuka@isc.senshu-u.ac.jp
- 磯谷明德 E:aki@snow.plara.or.jp
- 逸見良隆 〒179-0085 東京都練馬区早宮 1-15-14 T:03-3994-5612
- 伊藤正一 E:sito@kwansei.ac.jp
- 岩下伸朗 〒812-0053 福岡市箱崎 6 の 13 の 7 の 206, T:092-651-6413, E:Iwashita@fukujo.ac.jp
- 伊代田光彦 E:m-iyoda@andrew.ac.jp
- 加護野忠男 T:078-431-5114
- 懸田耕 T:03-3986-4505
- 河又貴洋 〒851-2127 長崎県長与町高無田

郷 945 の 2 の 201

木村誠 T:03-5457-5777

喜志麻孝子 E:tkishima@ip.media.kyoto-u.ac.jp

小山友介 G:学振特別研究員(京都産業大学)

久場嬉子 T:045-864-8387, E:yoshiko@u-gakugei.ac.jp

杭田俊之 T:019-621-6776,E:tkuita@iwate-u.ac.jp

黒田東彦 〒100-0013 千代田区霞ヶ関3の1の1 財務省財務官, T:03-3581-3716

正木馨 T:0154-37-5116,E:tmasaki@kushiro-pu.ac.jp

舛谷謙二 T:022-721-3210

松永達 T:089-927-3405

松嶋敦茂 E:matsushima@biwako.shiga-u.ac.jp

森宏一郎 O:日医総合研究所, 〒143-0025 東京都大田区南馬込6の29の9の301, T:03-3775-1593

森剛志 〒619-1300 京都府相楽郡精華町南稲八妻馬場脇 19 T:0774-95-3352 E:fwhk3905@mb.infoweb.or.jp

森口親司 O:帝塚山大学 〒631-8501 奈良市帝塚山7の1の1 帝塚山大学経済学部, T:0742-48-9514

永井聡 E:synagai@nana.or.jp

中野屋壮吾 O:宇宙開発事業団

中原隆幸 O:四天王寺国際仏教大学, 〒583-8501 羽曳野市学園前3の2の1 四天王寺国際仏教大学人文社会学部, T:0729-56-3181(Ex 4524), E:taknaka@shitennoji.ac.jp

中島義裕 O:大阪市立大学経済学部, 〒558-0022 大阪市住吉区杉本町3の3の138, T:06-6605-2273, E:yoshi@econ.odaka-cu.ac.jp

中野昌宏 〒870-1192 大分市寒田南町1 医大宿舎Aの103, T:097-554-7212

西山賢一 〒353-0005 志木市幸町1-8-1

新田光重 T:0492-79-1370, E:nittiger@pp.ij4u.or.jp

大室悦賀 O:府中市市役所, 〒183-0005 府中市若松町1の29の2, T:042-360-8447

岡部洋實 E:hiro@econ.hokudai.ac.jp

尾近裕幸 〒227-0061 横浜市青葉区桜台35の15の407, T:045-984-8238

大町慎浩 O:日本労働研究機構, 〒151-0061 東京都渋谷区初台2の25の1の302, T:03-5388-0566

太田仁樹 T:086-251-7529

大津定美 T:078-803-6840, E:ohtsu@econ.kobe-u.ac.jp

小澤太郎 〒152-0003 東京都目黒区碑文谷3の49の19, T:03-3723-3735

ケネス・ペクター O:東京大学・情報学環 〒113-0033 東京都文京区本郷7の3の1 東京大学社会科学研究所内情報学環, T:03-5841-4943, E:pechter@iss.u-tokyo.ac.jp

朴奎相 (Park, Ky-sung) 〒松戸市新松戸3の356

坂口明義 E:a-daka@mail.hinocatv.ne.jp

酒井泰弘 〒300-0832 土浦市桜ヶ丘町36の13, T:0298-22-1008, E:sakai@shakai.social.tsukuba.ac.jp

佐倉統 O:東京大学大学院情報学環

櫻井武司 O:国際農林水産業研究センター 〒305-8686 つくば市大鷲1の2 国債農林水産業研究センター海外情報部

貞岡久里 〒811-3425 宗像市日の里1-26-9 T:0940-36-1261 E:blackswan@geocities.co.jp

佐々木晃彦 T:093-693-3217

佐々木晃 〒215-0013 川崎市麻生区王禅寺

東 2 の 29 の 11

瀬尾崇 E:t-seo@wa3.so-net.ne.jp
柴直樹 O:千葉工業大学, 〒275-0016 習志野市津田沼 2 の 17 の 1 千葉工業大学社会システム科学部経営情報科, T:047-478-0351, E:shibaa@pf.it-chiba.ac.jp
七條達弘 T:0722-39-1348
清水耕一 T:086-251-7527
須藤修 T:03-5841-5928
立岡浩 〒543-0056 大阪市天王寺区堀越町 9-20-801 T:06-6774-0067 E:chk-rsh@fa.so-net.ne.jp
高橋真 E:shin@pm.tbgu.ac.jp
高橋真吾 E:Takahashi@pf.it-chiba.ac.jp
高橋浩 E:hirosi@tau.bekkoame.ne.jp
高倉泰夫 T:095-820-6395
高敷学 O:東京学芸大学, 〒203-0011 東久留米市大門町 2 の 3 の 6 の 105, T:0424-77-1465, E:takayabu@u-gakugei.ac.jp
竹本洋 E:takemoto@kawansei.ac.jp
玉井義浩 〒113-0001 東京都文京区白山 1-8-11 三ツカサ 101
谷口和弘 O:中国南開大学現代管理研究所 T:045-304-5390
寺西重郎 〒186-8603 国立市中 2 の 1 一橋大学経済研究所 T:042-580-8368

戸田宏治 E:k.toda.2001y.com
富田義典 E:tomitay@cc.saga-u.ac.jp
豊田謙二 T:0947-42-2118, E:toyota@fukuoka-pu.ac.jp
坪井賢一 T:03-5778-7214, E:k.tsuboi@nifty.com
植村博恭 T:03-3367-1334, E:huemura@symphony.plara.or.jp
馬田哲次 〒753-0841 山口市吉田 2220 の 14, T:083-932-0555
宇仁宏幸 T:072-851-4010
脇村孝平 T:0722-53-6860, E:wakimura@econ.osaka-cu.ac.jp
渡辺肇 E:hajimuwatanabe@happytown.ne.jp
山本いづみ O:徳島文理大学総合政策学部, 〒770-0941 徳島市万代町 5 の 47 の 3 の 106, T:088-624-6275
山本哲三 E:yama7@mn.waseda.ac.jp
山崎好裕 T:092-325-0435
柳田香織 〒179-0081 東京都練馬区北町 1-35-28 27号 T:03-5398-4610
柳原修 T:043-432-3719
吉田雅明 T:046-295-0909, E:m_yoshida@mtc.biglobe.ne.jp
持元江津子 E:e60y0431@ip.media.kyoto-u.ac.jp

Call for Papers 2001年5月10日

第6回進化経済学会大阪（千里山）大会 報告募集

開催日時：2002年3月29日（金）、30日（土）

開催場所：関西大学経済学部（吹田市山手町3-3-35）

テーマ：知識・組織・社会のイノベーションと進化経済学

今回の大会は、「新しい制度を設計（デザイン）しようとするとき、知識をどのように整理＝結合して使うべきか、そのような知識と制度進化はどのような関連をもっているのか」という関心から上記のようなテーマを掲げました。制度進化と知識の関連をめぐる多様な議論が活発におこなわれることを期待しております。ただし、そのことは、応募論文のテーマを制限するためのものではありません。広範な領域からの多数の応募をお願いいたします。また、Evolution/Transition（移行経済に対する進化的視点）という国際セッションが大会の一環として開催され、会員の積極的参加を求めています。詳しくは、この国際シンポジウムの案内を参照してください。

セッションの区分と名称は、公募の受付終了後、最終的に確定いたしますが、「応募のご参考」までに以下のセッションを挙げておきます。

- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| ①制度設計と知のあり方（オータム・コンファレンスからの継続） | |
| ②市場と進化 | ③進化と社会システム |
| ④技術革新と経済 | ⑤企業システムの進化 |
| ⑥経済思想と進化 | ⑦制度進化への経済史からのアプローチ |
| ⑧進化ゲームとシミュレーション | ⑨会計と制度設計 |
| ⑩ITは革命か？ | ⑪ポスター・セッション |
| ⑫自由論題 | |

応募要領：報告希望者は、(1)希望するセッション区分番号と区分名、(2)アブストラクト（A4用紙2枚程度、キーワード3から5を抽出）添付の上、(3)9月8日（土）までに、第6回進化経済学会大阪（千里山）大会運営委員会宛にお送り下さい。また、採否の決定は9月末日迄に行います。現在、非会員であっても学会加入の意思があれば応募を受理いたします。採択された方は来年1月26日（土）までに、『進化経済学論集6』に掲載するA4版10ページ以内の報告原稿（複写可能なもの）にテキストファイル形式またはMSword形式で入力したフロッピーディスクを添えて、お送りいただきます。また、ホームページでの事前閲覧サービスもおこないますが、そのために提出を依

頼するファイルの様式などの詳細は採択を通知する際にお伝えします。

○郵送の場合：〒564-8680 吹田市山手町 3-3-35 関西大学経済学部・若森研究室

進化経済学会大阪（千里山）大会運営委員会 宛

電話：06-6368-0634（若森研究室） 06-6368-0627（安喜研究室）

06-6368-0787（斎藤研究室） 06-6368-1147（経済学部事務室）

FAX：06-6339-7704（経済学部事務室）

○電子メールでの応募も可能にする予定ですが、いましばらくお待ちください。後日、改めてお知らせいたします。

.....
※第6回進化経済学会大阪（千里山）大会運営委員会

委員長・若森章孝（関西大学経済学部；wakamori@ipcku.kansai-u.ac.jp）

副委員長・安喜博彦（関西大学経済学部；yasuki@ipcku.kansai-u.ac.jp）

事務局長・斎藤了文（関西大学社会学部；saiton@ipcku.kansai-u.ac.jp）

ホームページ（<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~saiton/evoecomenu.htm>）

進化経済学会大阪（千里山） オータム・コンファレンス開催のお知らせ

「制度設計と知のあり方」というテーマで、本年のオータム・コンファレンスを関西大学で開催します。「制度進化と知識」をめぐるさまざまな論点が活発に議論されることを期待しております。多数の会員のご参加をお待ちしています。

開催日時：9月15日（祝日）午後2時から5時半（受付開始午後1時半）

会場：関西大学経済学部（阪急千里線関大前下車）

第2学舎1号館・5階（A501教室、A502教室）

瀬地山 敏（関西大学）「司会・問題提起」

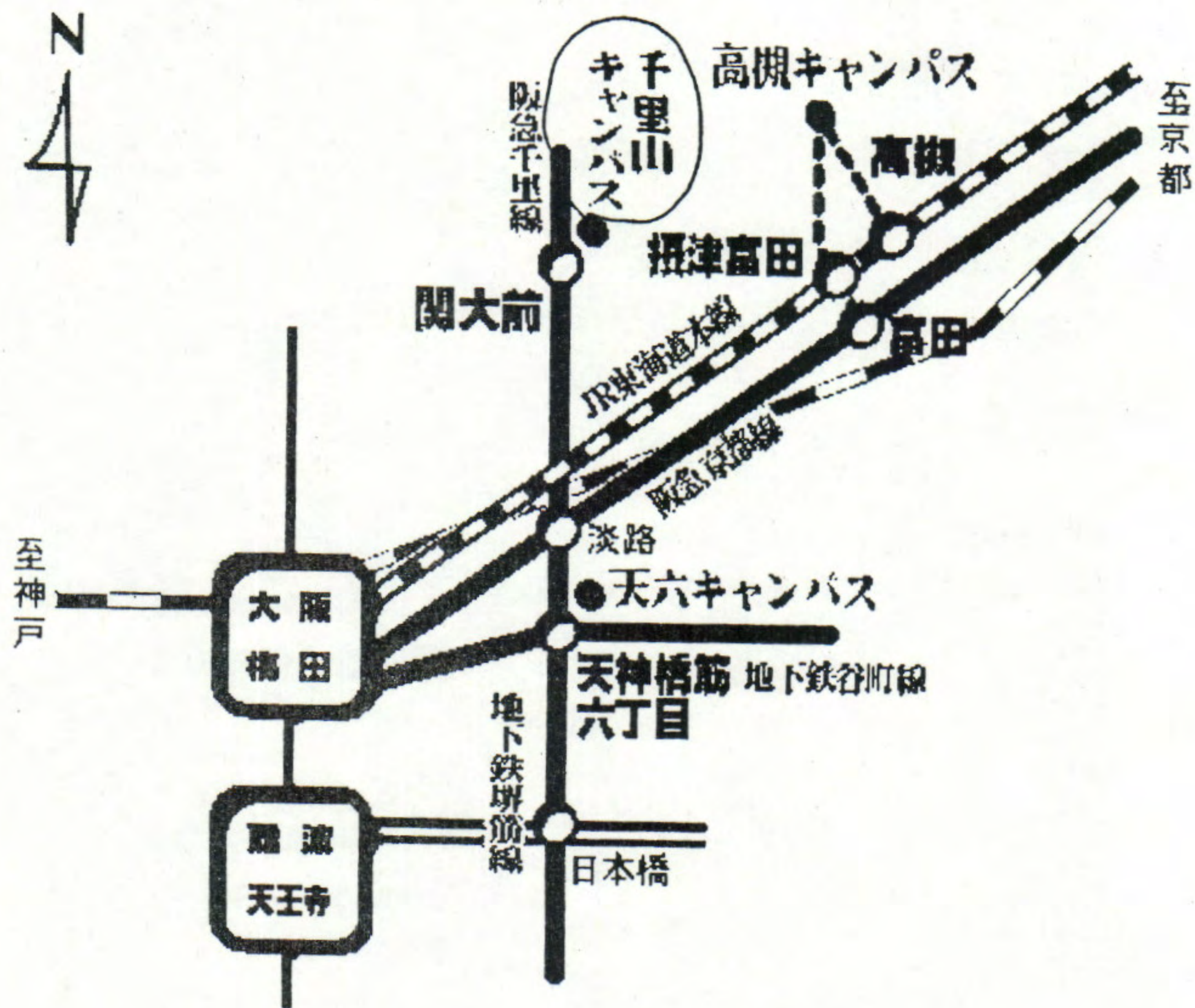
西部忠（北海道大学）「経済と知識——経済進化と制度設計——」

出口弘（京都大学）「新しい社会経済システムの創出と設計問題」

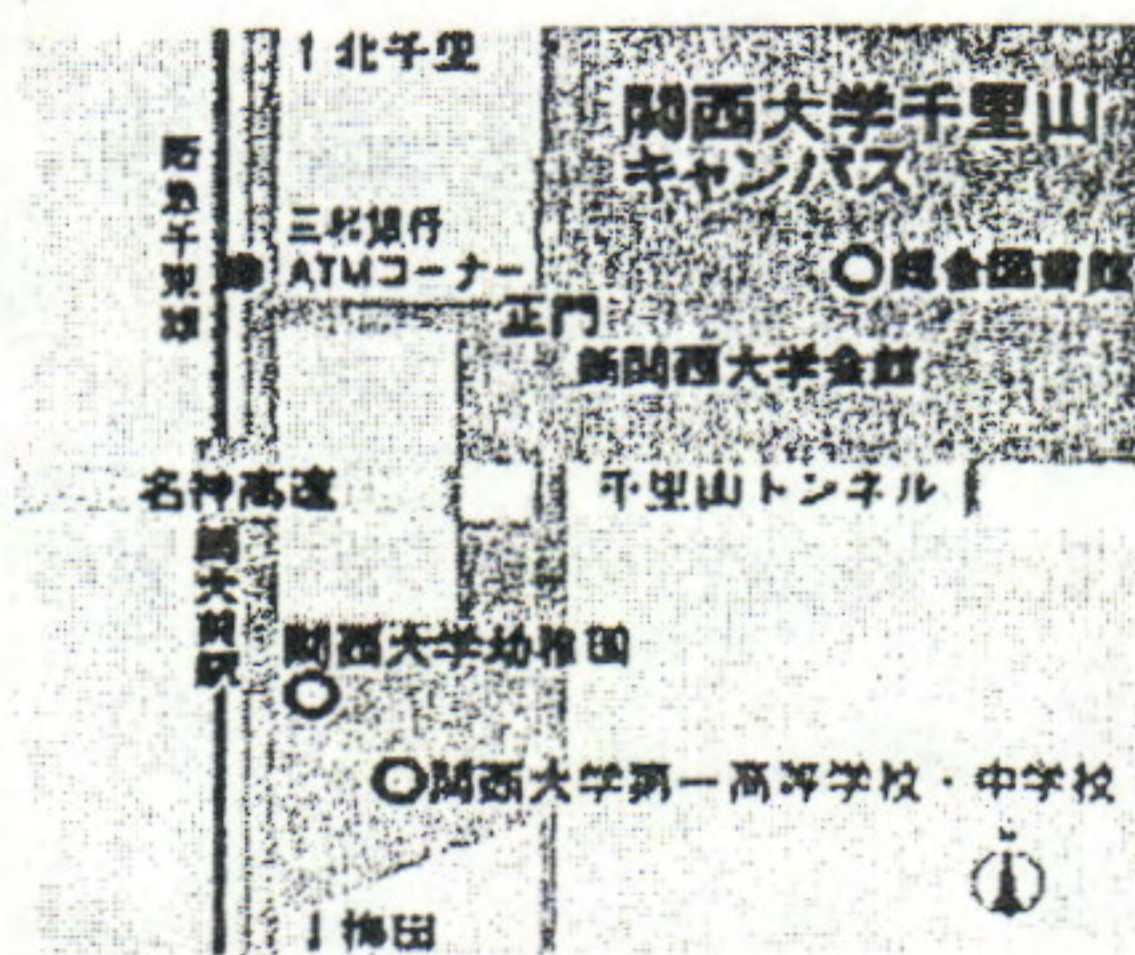
梅本勝博（北陸先端技術大学院）「企業における知のイノベーション」

吉田和男（京都大学）「知と制度」

午後5時40分頃から懇親会：ポンブラット（新関西大学会館南棟4階）



千里山キャンパス



〔阪急をご利用の場合〕

「北千里」行乗車で京都線から千里線まで直行。関大前駅にて下車。「河原町」「高槻市」「梅田」行などに乗車の場合、途中淡路駅(急行以下停車)にて「北千里」行に乗り換え、関大前駅にて下車。徒歩約5分。

〔地下鉄をご利用の場合〕

「北千里」行乗車で堺筋線から阪急千里線まで直行(堺筋線と阪急千里線相互乗り入れ)、関大前駅にて下車。「高槻市」行は途中阪急淡路駅にて「北千里」行に乗り換え、関大前駅にて下車、徒歩約5分。なお地下鉄堺筋線「天六」行は淡路までは行かないので注意。

〔新幹線をご利用の場合〕

- JR新幹線新大阪駅から地下鉄御堂筋線「なかもず」行乗車で西中島南方駅下車。徒歩1分程度の阪急南方駅で「北千里」行に乗り換え、関大前駅下車。徒歩約5分
- 新大阪駅より一旦大阪駅に向かい、そこから阪急を利用。

事務局から：

1. 平成 13 年度の会費納入 (10,000 円) をお願いします。大学院学生は会費半額 (5,000 円) ですが、同様の扱いを受けたい方は事務局にご相談ください。また、長期外国滞在などで一時休会の措置を取りたい方も、事務局にご相談ください。
2. 大会報告集はお手元に届いているでしょうか。届いていない場合は、事務局にご連絡ください。
3. 今年度の出版費は、野心的な英文出版の経費補助にあてられました。機関購入も可能です。大幅割引の特価期限内にご購入ください。

進化経済学会会員のみなさま

第4回東京大会の海外参加者・国内参加者の英語報告を中心にした

Evolutionary Controversies in Economics - A New Transdisciplinary Approach

Ed. by Aruka Yuji as a publication of Japan Association for Evolutionary Economics

が6月末に刊行されます。重要論文16点を収録しています。定価は8,600円の予定ですが、学会の出版予算の補助により、会員には特別価格3,000円で販売します。9月末まででしたら、会員の縁故のある大学・研究所・企業の経費で購入することも可能です。複数部数注文も可ですが、再販売はご遠慮ください。この注文書にしたがって、版元のシュプリンガー・フェアラー・東京社から、請求書とともに配送されますので、指示にしたがってご送金ください。なお、機関購入の場合は、他に必要な書類があれば、お書きください。

2001年5月10日

進化経済学会

特別価格注文書 (有効期限 2001年9月末日)

Evolutionary Controversies in Economics を 部注文します。

郵送先住所 (所在地) :

(個人購入の場合) 購入者氏名 :

(機関購入の場合) 購入機関 :

請求書のほかに必要な書類があれば、お書きください

()

会員氏名 (署名ないし捺印) :

注文書郵送先 : 〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目3の13

シュプリンガー・フェアラー東京

あるいは ファクシミリ 03-3812-4644 でも注文を受け付けます